

国際交流レター

2003 vol.25

International Exchange Letter



国際交流レター

2003 Vol.25

C O N T E N T S

巻頭言	1	交換留学生(派遣)体験記	16
国際交流委員長 中野裕治		長期派遣	
TOPICS	2	緒方 真美 Carroll College (アメリカ モンタナ州ヘレナ市)	
第13回留学生弁論大会		是石 昌樹 Carleton University (カナダ オンタリオ州オタワ市)	
ラトローブ大学提携		黒木 珠美 Liverpool John Moores University (イギリス リバプール市)	
新プログラム紹介		中村 恵美 UNITEC (ニュージーランド オークランド市)	
新協定校紹介&担当者の声	4	安達 知子 大田大学校(韓国 大田広域市)	
カール マークグラフ 氏 ウィスコンシン大学オークレア校 国際教育担当部長 Dr. Karl Markgraf Director, Center for International Education University of Wisconsin-Eau Claire		淵上 達也 中国人民大学(中国 北京市)	
スティーブン コネリー 氏 ラトローブ大学 国際交流担当部長 Mr. Stephen Connelly, Director, International Programs La Trobe University		短期派遣	
正規留学生体験記	6	満崎 理恵 Liverpool John Moores University (イギリス リバプール市)	
王 欣 宇 オウ キンウ (中国 山東省)		中山 憲 University of Ulster (イギリス 北アイルランド コールレイン市)	
銭 雷 セン ライ (中国 江蘇省)		教員交流	23
研究留学生体験記	8	趙 允 來 大田大学校教授(韓国 大田広域市)	
Hutoxi Damania ウトクシ ダマニア (インド ムンバイ)		孫 利 群 深圳大学教授(中国 広東省深圳市)	
交換留学生(受入れ)体験記	9	船木 高司 商学部助教授 (韓国 大田広域市 大田大学校へ派遣)	
Minott Pruyn ミノット プライヤン Montana State University (アメリカ モンタナ州ボーズマン市)		交 流	26
Danny Gorny ダニー ゴーニ Carleton University (カナダ オンタリオ州オタワ市)		国際交流写真館	
Karen Horton カレン ホートン Liverpool John Moores University (イギリス リバプール市)		2003年海外往来	
金 美 星 キム ミソン UNITEC (ニュージーランド オークランド市)		DATA	30
李 炯 珍 イ ヒョンジン 大田大学校(韓国 大田広域市)		データ(留学生数、交換留学生名簿、 奨学金受給実績等)	
董 琰 ドン イエン 深圳大学(中国 広東省深圳市)		本学留学生への主な案内	
グエン ティ タイン トウイ ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム ハノイ市)		交換教員紹介	
		研修団往来	

「親善大使20年の軌跡」

第8代国際交流委員長

中野裕治



本誌の創刊は1983年5月である。丁度20年を経たことになる。前年の7月本学（当時北古賀学長）とモンタナ州諸大学との姉妹締結を契機に本学の国際交流が本格化した時期に、「交流の証（あかし）」として本誌の発行が企画された。当時筆者は特別編集委員をしており、幾つかの思い出がある。

1983年夏、大学院5名（UM）を含む19名の夏期研修団が熊本を訪問。習慣の違いか、体育館に土足であがって宮林先生に叱られたり、ホームステイ先では、畳の上で縄跳びをしたり、風呂の栓（ストッパー）を抜くなど大いに驚かされた。また、当時大学の正面向かい側にあった日本たばこ産業の工場を見学した時、引率者のジム・リーとボブ・スウィス両教授（MSU）を含め、訪問団の中には、喫煙者が一人もいなかったのには感心させられた。帰国後、珍体験を含む感謝のレターが届いた。熊本からもホームステイ先の家族や企業ステイ先から原稿が寄せられた。構成の段階で囑託職員の坂本順子さんとともに、原稿に出てくる「熊本弁」をどの程度そのまま生かすかについて悩まされたことなど思い出す。いまや熊本弁のわかる外国人は少なくない。隔世の感がある。この間交流校も9カ国20校に増えた。

この20年で大きく変わったこと。それは、国際情勢の時々刻々の変化が本学の国際交流活動に直接影響するに到ったということであろう。いまや、年間約300名の学生諸君が海外に出ている。昨年来、国際情勢は厳しく且つ不測の事態が続いた。「9.11同時テロ」以来、緊張感が漂う中、ついに米英軍はイラク攻撃を開始、そのため国際経済学科と英米学科のアメリカおよ

びイギリス向けの夏期研修は中止。急遽ニュージーランドへの行き先変更を余儀なくされた。訪問予定の大学には中止を告げ、新たな行き先とは受け入れの交渉が必要となる。

また、今年に入り中国広東省に端を発したSARS（重症急性呼吸器症候群）の蔓延により、深圳および北京留学中の諸君に対して帰国命令が出された。彼（彼女）等にとっては、中国入りして約ひと月、ようやく生活にも慣れ、学習にも熱が入り始めた矢先の出来事であった。本人たちの気持ち、家族の心配そして蔓延の推移状況を見つめる中で決定されたのだが、4月4日時点では公表された患者数2,270人、死者79人が、その後800名近くの死者を出すに至ったことを思えば、学長を中心とする本学の英断は、時宜を得たものであった。その後、SARSは終息し、学生諸君も9月から各人留学生活に戻っている。残された貴重な時間を有意義に過ごし、成果をあげて無事に帰ってくることを祈る次第である。

これら不測の事態は今後もあり得る。その時求められるのは、多くの人びと（部署）の理解と協力である。そして、信頼関係、とりわけ国際関係における信頼は一朝にしては生まれない。今回すべて順調に事が運んだのは、これまで交流活動に携わってこられた先人たちの努力の賜と感謝したい。

ところで、本学では海外からの交換留学生に対する修了証書を「親善大使認証状」と称している。その意味では、過去20年にわたる本誌の執筆者こそ、本学のよき理解者であったし、今後も頼れる親善大使であり続けて戴きたいものだと願って止まない。

◇第13回外国人留学生弁論大会 ～ 韓 美 貞さん 最優秀賞に輝く ～

第13回外国人留学生弁論大会が平成15年6月21日(土)午後1時30分より、本学学生会館4階多目的ホールで行われた。本学に在籍する6カ国14名の外国人留学生が、日本での留学生活の中で感じたことや考えさせられたことなどを流暢な日本語で熱弁をふるった。会場には、高校生・学生・市民ら約200名の聴衆が集まり、立ち見が出る盛況ぶりで大会は大いに盛り上がった。

審査の結果、「若いうちの苦勞は買ってでもしろ」という日本の言葉を元に若者の挑戦する姿を発表した韓国大田大学からの交換留学生、韓美貞(ハンミジョン)さんが最優秀賞に、また優秀賞技術部門および聴衆者投票によるオーディエンス賞には中国深圳大学からの交換留学生、罗燕雯(ルオ イエン ウェン)さんが選ばれた。審査員長の本学川田亮一先生が「今年も大変審査員泣かせの弁論大会でした」と講評を頂いたほど、どの学生の弁論も非常に素晴らしい内容で弁論大会は無事終了した。

また弁論大会終了後には、留学生、審査員をはじめ、当日詰め掛けた来場者が参加し、7号館教職員食堂で茶話会も行われた。



最優秀賞を受賞した韓美貞さん



賞	氏名	出身国	所属	テーマ
最優秀賞	韓 美 貞 Han Mi-jung	韓国 Korea	国際経済学科4年	若者の挑戦
優秀賞 (内容部門)	グエン ティ ミン ロイ Nguyen Thi Min Loi	ベトナム Vietnam	経営学科4年	私の誇り
優秀賞 (日本語部門)	カレン ペドロザ Karen Pedroza	アメリカ U.S.A.	国際経済学科2年	ゲームの世界
優秀賞(技術部門) オーディエンス賞	ルオ イエン ウェン Luo Yanwen	中国 China	経営学科4年	地球おじさんの食べ物
努力賞	リュウ エン 燕 Liu Enyan	中国 China	福祉環境学科3年	私と私の国際友達
	ミノット プライヤン Minott Pruyyn	アメリカ U.S.A.	国際経済学科4年	フォルフ
	パク ジョン スン Park Jongsun	韓国 Korea	東アジア学科4年	私が愛する日本語
	チュエ チン ミ Chue Chinmi	韓国 Korea	東アジア学科4年	近所
	リュウ スウ スウ Liu Suusu	中国 China	国際経済学科4年	日本と中国の大学におけるシステムの違い
	マ シン ジョ Ma Shinjo	中国 China	国際文化研究科1年	知識経済時代における日中文化交流の展望
	リム グン ヨン Lim Gunyon	韓国 Korea	東アジア学科2年	日本の男の子が変わっている
	ダニー ゴーニ Danny Gorny	カナダ Canada	英米学科3年	日本にいる外国人について
	ファン ジョン ミン Fan Jongsmin	韓国 Korea	東アジア学科4年	お土産の文化
	カレン ホートン Karen Horton	イギリス U.K.	国際経済学科3年	目が不自由な人

◇新協定校紹介



オーストラリア・ラトロブ大学

1964年にビクトリア州の州都メルボルンに設立されたオーストラリアでも有数の規模をもつ国立の総合大学。学生数は約24,000名。6つのキャンパスからなり、どのキャンパスにおいても充実した研究施設が整っている。国際教育にも熱心で世界26ヶ国に協定校を持ち、多国籍、多文化、広い年齢層、社会的・専門的に多彩なバックグラウンドを持つ大学である。2003年3月より初めて本学から学生2名を派遣、9月からはラトロブ大学からも2名の交換留学生を受け入れており、順調なスタートを切っている。

◇新プログラム2004年2月スタート ～短期語学ホームステイプログラム～

どの学部の学生でも語学力向上のために気軽に参加できる企画を、と立ち上げたこのプログラムは、ホームステイをしながら3週間の語学研修を受ける。行き先は、本学の協定校であるオーストラリア・ラトロブ大学およびニュージーランド・ユニテック。選抜された学生には、大学より10万円の援助金が支給される。詳細は下記の通り。

1. 派遣人数及び派遣期間

派遣先	派遣人数	派遣期間
ラトロブ大学 オーストラリア・メルボルン市	21名	平成16年2月3日(火)～2月29日(日)
ユニテック ニュージーランド・オークランド市	11名	平成16年2月28日(土)～3月23日(火)

ウィスコンシン大学オークレア校 (アメリカ)

University of Wisconsin-Eau Claire



カール マークグラフ氏
国際教育担当部長

ウィスコンシン大学オークレア校
1916年創立の州立大学。教育・ビジネスなど80の学士課程コースが設置されており、地方州立大学の中でも高いレベルを持つと定評がある。学内に自然公園も有する美しいキャンパス。本学とは2002年5月に交流協定が締結、2003年度に第1回交換留学生を派遣している。

21世紀は、拡がるチャレンジの場とともに活気に満ちた新しいチャンスをもたらしてくれました。同時に、こうしたチャレンジの場を増やし、チャンスを最大限に利用することも私たちの義務でしょう。

文化、経済、政治体制その他多くの分野でのグローバリゼーションによって特徴づけられる私たちの時代では、互いの文化や社会の多様性の理解を深め敬うことが重要です。学生や研究者の交流は、国家間の相互理解へのもっとも確実な道だと私たちは信じています。また、異文化の相互理解と敬意が平和を保証するものだと思っています。

このような精神から、私たちは熊本学園大学との交流協定開始を喜ばしく思っています。ウィスコンシン大学オークレア校では、全学生に対してエクセレントな（一流の）経験を提供すべく最大の努力をしています。実際、“EXCELLENCE”が当校のモットーであり、すべての学術プログラムや学生サービスにおいて一流を目指しています。

この文章を書いている間にも、貴学からの留学生が私たちの大学に住み勉強をしています。彼らは日米の国家間や文化間の掛け橋を築き、グローバルな視野をもった世界の市民になりつつあります。

国際教育交流のパートナーとして私たちが次世代に向けて、より平和的で敬意に満ちた世界と一緒に作り上げることのできる21世紀を楽しみにしています。

友好大学である熊本学園大学に心から感謝し、我がウィスコンシン大学オークレア校に貴学から教職員や学生たちがおいでいただけるのを楽しみにしております。



University of Wisconsin-Eau Claire

105 Garfield Avenue • P.O. Box 4004 • Eau Claire, WI 54702-4004

Exchange Programs for the 21st Century with Kumamoto Gakuen University

The 21st Century brings exciting new opportunities, as well as increasing challenges. Together, it is our duty to rise to these challenges, and to make the most of these opportunities.

In our age, which is increasingly characterized by the globalization of cultures, economics, political systems and more, it is important for us to increase our understanding and respect for the diversity of one another's cultures and societies. It is our belief that the exchange of students and scholars is the most certain path to mutual understanding among nations. We also believe that mutual understanding and respect for other cultures is the guarantor of peace.

With this in mind, we are delighted to inaugurate our exchange with Kumamoto Gakuen University. At the University of Wisconsin-Eau Claire, we are committed to providing an excellent experience for all our students. In fact, "EXCELLENCE" is the motto of our university; and we strive for excellence in all of our academic programs and our student services.

As I write this letter, students from your university are living and studying at my university. They are building bridges between our nations, and our cultures, and they are becoming global citizens in the process. And, as I write this, we are making plans to send our students to your university, where they will continue that process.

We look forward to a 21st century in which we, as partners in international educational exchange, can work together to build a more peaceful and respectful world for the future generations.

We extend our warm thanks to our friends at Kumamoto Gakuen University and an invitation to the staff and students to join us at the University of Wisconsin-Eau Claire.

Sincerely,

Dr. Karl Markgraf
Director, Center for International Education

Excellence. Our measure, our motto, our goal.

Center for International Education • Schofield Hall 111 • (715) 836-4411 • fax: (715) 836-4948
e-mail: inted@uwec.edu • www.uwec.edu/CIE

ラトロブ大学 (オーストラリア)

La Trobe University

LA TROBE UNIVERSITY
ABN 64 804 545 117 CROCODILUM
International Programs Office



Postal address:
Melbourne, Victoria, Australia, 3086
Telephone: +61 3 9479 1199
Fax: +61 3 9479 3660
Email: international@latrobe.edu.au
Internet: www.latrobe.edu.au/international/



スティーブン コネリー氏
国際交流担当部長

EXCHANGE PROGRAMS FOR THE 21ST CENTURY WITH KGU

The tradition of international academic exchange provides opportunities for students and staff to enhance intercultural understanding through increased mobility and interaction. The newly formed partnership between La Trobe University and Kumamoto Gakuen University (KGU) will further enhance the educational and professional experiences of our staff and students.

Internationalisation of the academic program, within the context of Australia's close links with the Asia-Pacific region, is a goal which KGU and La Trobe University share. Through an effective credit transfer scheme, both institutions are striving to facilitate mutual recognition of qualifications and educational experiences in the Asia-Pacific region.

La Trobe University appreciates KGU's support for its Annual International Exchange Fair, which provides an opportunity for La Trobe students to find out more about international study programs. We look forward to further developing the relationship between our two universities.

Stephen Connelly
Director, International Programs Office
La Trobe University

ラトロブ大学

1964年創立の国立の総合大学。

学生数は約24,000名、6つのキャンパスからなり、国内でも有数の規模を持つ。ラトロブ大学が位置するビクトリア州都メルボルンは、人口約315万人で、温帯性気候の地域に属し、四季がはっきりしていて気候も比較的穏やかである。本学とは2003年2月に交流協定が締結。



国際教育交流の伝統は、交通手段や情報交換の手段の発達によって、学生と教職員に異文化理解を深める機会を提供することになりました。ラトロブ大学と熊本学園大学との間に新たに締結された交流協定は、教職員と学生に教育的で専門的な経験を、今後さらに深めていくことになるでしょう。

オーストラリアから近いアジア・太平洋地域という文化的背景において、教育プログラムの国際化は、熊本学園大学とラトロブ大学が共にめざす一つの目標です。有効的な単位互換計画を通じて、アジア・太平洋地区において両大学は資格や教育経験を相互に承認できるよう努力しています。

ラトロブの学生が留学プログラムについてより多くの情報を得る機会である国際交流フェアでの熊本学園大学のご協力に、本学は大変感謝しております。両大学間の関係において今後さらなる発展を願っております。

留学の……

社会福祉学部 福祉環境学科1年 王 欣 宇

こんにちは、私は王欣宇（オウ・キンウ）と言います。みんなユーユーと呼んでいます。今学園大の福祉環境学科の一年生として勉強しています。

日本で一年半という日々を送った今の私は来日前の私ではありません。この間に、いろいろな珍しい体験や思い出が心に残りました。この違う国土での生活は私の人生でほんとうに珍しいことだと言えます。

私は去年の四月に、中国の青島から私費留学生として日本にやって来ました。日本に来てはじめての時、困ったことがたくさんありました。何をしても、とても不便だと感じました。だから、気分が時々よくなって、生活が苦しい感じがありました。日本に来る前のいろいろな大きな希望が、すぐ現実になりにくいと思いました。それに、毎日勉強をしたり、アルバイトをしたり、料理を作るためにいつでも忙しすぎる感じがあります。何でも自分一人でしなければなりません。留学生はほんとうにつらいと思います。

この一年半、いろいろな初めてのことに遇えました。初めて着物を着たり、刺身を食ったり、初めて、初めて、初めて……その中で一番心に残ったことは地震です。ある日急にベッドを自動的に揺り動かして目が覚められました。びっくりしました。時計を見てまだ朝4時ぐらい、何も分からない自分はポーとしてしまいました。翌日友達に聞いてからあれは地震だって分かりました。分からないうちに生まれてから初めての地震を乗り越えました。

さらに、楽しいこともたくさんありました。大学へ通っているうちに、たくさんのイベントも参加しました。日本一の石段に登ったり、ビール工場を見学したり、通潤橋を観光したり、いろいろしました。とても、楽しかったです。

この間に何でも気軽に話し合える友達もできました。日本人と一緒に勉強をするのですから、自分の日本語力をもっと高めなくてはなりません。日本で生活してから、日本のイメージは変わりました。日本はとても平和で、豊かな住みやすい国だと思います。多くの人々は親切で、勤勉です。私たち中国人は日本から学ぶことがたくさんあります。私は、これから、自分が知りたいことや興味があることについて、いろいろな本を読んで、どんどん勉強しようと思っています。日本の自然や社会、歴史、文化、それに科学技術など、もっと知りたいことがいっぱいあります。日本の各地を訪れようと思っています。できるだけいろいろな所に行き、見聞を広めるつもりです。海外留学の生活は忙しくて、厳しい生活と思いますが、若いうちに、いろいろな体験をしたほうが良いと思います。

日本に留学して日本語だけじゃなくて、人生や人間関係も習うことが出来ました。卒業しても、忘れられないと思います。先生達や恩人、友達に心からの感謝のこぼれを送りたいと思います。

大学の生活も3年間しか残ってないです。ですから、これからの3年間では一分間たりとも無駄に使えない、一生懸命に勉強しようと思います。頑張ろう!!! よろしくお祈りします。



中央町三千段に挑む（筆者は2列目中央）

インターンシップ・レポート

商学部 経営学科3年 銭 雷

私は7月22日から26日までの5日間、熊本FAZ株式会社で研修をさせて頂いた。私にとって、この貴重な体験をまとめたいと思います。

もともと今回の「インターンシップ」を受ける前に、このプログラムの名前を聞いて、日本人学生向けの就職関係の科目だと思いました。なぜかという私は中国から来た留学生ですから、その時まで日本で就職するつもりはありませんでした。しかし、先生の話聞いてから、今回のインターンシップを受けたお陰で、「インターンシップ」は日本人学生が就職するための専用の科目ではなく、私みたいな外国留学生も受けることができるし、いろいろな知識を勉強することができ、見聞を広げることできるという事が分かりました。また日本の企業の経営システムを理解し、自分も日本の企業に就職するなら自分の人生にとって非常にいい折り返し点になるのではないかと思います。

私が行くことになった「熊本FAZ株式会社」は、国、熊本県、熊本市をはじめ地元企業・団体の出資により平成7年8月に第三セクターとして設立され、輸入促進基盤施設整備・運営を行う事業主体としての熊本港の整備に合わせた事業活動を進めています。

1日目は副社長と専務から会社についての知識を教えてくださいました。正直に言うと、会社で研修すること、また貿易に関する知識を勉強することは私にとって初めてですから、最初はドキドキで何をしたいか分からずちょっと心配しました。1日目が終わって、自信を少し持って「よし、明日からもっと頑張ろう」と思いました。

平成11年7月、韓国釜山港との間に念願のコンテナ国際定期航路が開設され、熊本港は国際港としての第一歩を踏み出しました。今は週に二回、釜山からの定期便がありますので、コンテナヤードの管理、海運業務などが私の二日目の実習内容です。前にテレビでしか見たことのない港湾風景が、実地で自分の目に入った時、ほんとに言葉で表現できない気持ちでした。熊本港での実習によって、今まで熊本港の利用率が順調に推移して、今後ますます熊本港の利用

の高まりが期待されているのが、県民が選んだ熊本港の新しい愛称「夢咲島」から分かると思います。

3日目は、フードパル熊本とフンドーグイという会社に企業訪問に行きました。経営学科の学生として私は、企業経営者と直接に話して、彼らの経営理念や経営方針を聞くチャンスはこれまでありませんでした。今回企業で勉強させてもらって、「企業の安定」の重要性が少し分かるようになりました。このように企業経営者から学んだ経験が、私にとっていい勉強になったと思います。

4日目と5日目は、熊本県貿易協会の会長、日本貿易振興会熊本貿易情報センター所長に貿易に関すること、また外国為替相場の変動が貿易取引に与える影響について伺いました。この話を通じて、私は学校でまだ勉強不足ということを改めて痛感しました。これからもっと頑張って勉強したいと思います。

この5日間は思っていたよりもあっという間に過ぎました。最初は緊張して不安もありましたが、熊本FAZ株式会社の皆様にとっても親切にさせていただき、すぐに慣れることができました。熊本FAZ株式会社に対して本当に感謝の気持ちでいっぱいです。充実した楽しい研修ができて、とてもよかったです。今回の実習で学んだことは、言い尽くせないほどたくさんありました。この経験をこれからの私の学習、また人生に役立てたいと思います。



インターンシップ先の企業にて（筆者は右から2人目）

※ 経営学科インターンシップ

実践を目指した経営学教育の一環として設置している正規の科目。企業や官公庁等で就業体験する。

いつか家族と熊本へ

Hutoxi Damania ウトクシ ダマニア
【1994年4月～1995年3月インド・研究留学生】

Watashi wa Hutoxi Damania desu. 1994 ni hajimete Indo no Bombay kara Nihon ni kite, ichinenkan Kumamoto Gakuen Daigaku de ryugaku sasete itadakimashita. Kumamoto ni sugoshita ichinenkan wa totemo tanoshikatta desu. Tokyo to Osaka no you na ookii toshi ni iru yori mo Kumamoto ni ryugaku suru koto wa 'honto no' Nihon wo keiken suru koto ga dekimashita to omoimasu. Daigaku no Hirota sensei no otaku de homestay sasete itadakimashita node Nihonjin no katei seikatsu mo sukoshi wakaru koto ga dekimashita. Sono ichinenkan wo wasureru koto ga dekimasen.

1995 ni Indo he kaette kite kara 5 nenkan Mitsui Bussan Kabushiki Kaisha no Bombay jimusho de tsutomemashita. Kaisha dewa Kumamoto Gakuen Daigaku de benkyou shita koto wo totemo yaku ni tachimashita.

2000 ni kekkon shite shujin no Marazban to isshouni America ni hikkoshimashita. Ichinenkan Texas shuu no shuuto Austin ni sugoshite, 2001 ni Colorado shuu no Denver ni hikkoshimashita. Colorado wa Kumamoto no you ni shizen ga totemo kirei desu. Rocky Mountain Range wa takai yama ga takusan arimasu. Aspen to Vail no you na ski no dekiru tokoro mo takusan arimasu.

Kyounen 11 gatsu ni musuko no Mithra Jahaan ga umaremashita. Mithra wa mo sugu issai ni narimasu shi aruki hajimete imasu. Itsu ka shujin to Mithra to isshouni Kumamoto ni ikitai to omotte imasu.

私は、Hutoxi Damania (ウトクシ ダマニア) です。1994年、初めてインドのボンベイ（現在のムンバイ）から日本に来て、一年間熊本学園大学で留学させていただきました。熊本に過ごした一年間は、とても楽しかったです。東京と大阪のような大きい都市にいるよりも熊本に留学することは、「本当」の日本を経験することができましたと思います。熊本学園大学の広田先生のお宅でホームステイさせていただきましたので、日本人の家庭生活も少しわかることができました。その一年間を忘れることができません。

1995年にインドへ帰ってきてから5年間、三井物産株式会社のボンベイ事務所で勤めました。会社では熊本学園大学で勉強したことがとても役に立ちました。

2000年に結婚して、主人の Marazban と一緒にアメリカに引っ越しました。一年間テキサス州の首都オースチンに過ごして、2001年コロラド州のデンバーに引っ越ししました。コロラドは、熊本のように自然がとても綺麗です。ロッキー山脈は、高い山がたくさんあります。Aspen や Vail のようなスキーのできる場所もたくさんあります。

去年11月に息子の Mithra Jahaan が生まれました。Mithra はもうすぐ1歳になりますし、歩き始めています。いつか主人と Mithra と一緒に熊本に行きたいと思っています。



Marazban 氏の撮った筆者と息子 Mithra くん

A Year in Japan

Minott Pruyn ミノット プライヤン

【2002年9月～2003年8月アメリカ・モンタナ州立大学交換留学生】

While at KGU... I participated in parades, I saw a bridge which turned into a waterfall, I wore a kimono, I pounded Mochi, I took a bath in hot sand, I wore funny hats, I saw breathtaking views, I visited castles, I walked up 3333 stairs, I sang Karaoke, I biked over the bridges of Amakusa, I studied, I learned how to play a Koto, I dressed like a monkey, I ate the strangest food and enjoyed it, I went skiing, I saw a life-sized tiger entirely made of candy, I dressed up as Santa Claus, I saw ninjas, I learned the tea ceremony, I was blessed by a Buddhist monk, I saw wild dolphins, I learned how tatami was made, I shook hands with a prince, I saw a 25 foot tall snow sculpture, I found octopus along the seashore, I saw a Japanese marriage, I camped in the middle of Nagasaki port, I rafted the Kuma River, I saw a temple covered in gold, I was a Tibetan fashion-model, I spent Christmas in Kyoto, I ran a relay race, I went fishing, I learned the customs and traditions of Japan's wondrous people and I made new friends! My stay and participation at KGU was a life-changing experience and I must give Special Thanks to the crew at KGU's International Office, who made it all possible.



趣味のサイクリングでのショット

熊本学園大学にいる間、僕はパレードに参加し、滝となって落ちる橋を見、着物を着、もちをつき、熱い砂風呂に入り、おかしな帽子をかぶり、息を呑むような景色を見、お城に行き、3,333段の石段を登り、カラオケを歌い、天草五橋を自転車で渡り、勉強し、琴を習い、サルのような格好をし、これまでに食べたこともないようなものを味わい、スキーへ行き、すべて砂糖で作られた実物大のトラを見、サンタクロースの格好をし、忍者を見、茶道を習い、仏を拝み、野生のイルカを見、畳の製造過程を知り、皇族と握手をし、25フィートの高さの雪像を見、海辺でタコを見つけ、日本の結婚式を見、長崎港でキャンプをし、球磨川下りをし、金のお寺を見、チベットの衣装を着、京都でクリスマスを過ごし、リレー走者となり、素晴らしい日本人の習慣や伝統を学び、新しい友達ができました！僕の滞在と熊本学園大学での留学生活は人生を変える経験となり、すべてのことを可能にしてくれた国際交流センターのスタッフに心からお礼を申し上げます。



長崎県島原城にて

My normal life in Kumamoto

Danny Gorny ダニー ゴーニ

【2002年9月～2003年7月カナダ・カールトン大学交換留学生】

I really liked being in Kumamoto. I found it to be a great, small, friendly town in Japan, and I really liked being away from a large urban centre for my stay. Kumamoto is a beautiful city, with a castle, great festivals, and a very urban atmosphere. I really enjoyed the wealth of cool old stuff both in and around the city. There were many beautiful temples, the 3,333 stairs, a volcano, and many things to do in the area, including many places related to the life and death of Miyamoto Musashi, which I found very interesting. The classes at KGU were very good, as well. My Japanese classes were great, and I think the best thing about school there is that I could take normal classes in Japanese, and was even encouraged to do so. The international office's staff are great, and organised lots of events, and cultural demonstrations for us to take part in, and I found myself really enjoying some of the little things about Japanese culture, like shamisen music, and Noh drama. I feel that I was very lucky to get the chance to go to KGU, and I keep getting the impression that I may have gotten more out of my stay in Japan by not focusing on the obvious touristy things to do, and being able to take part in normal life as much as I wanted to.

Thanks, everyone!

僕は熊本が本当に好きだった。日本の中でも、かっこよくて、小さくて、フレンドリーな町だった。大都市圏から離れて過ごせたことがすごく嬉しかった。熊本は綺麗な町で、お城があり、カッコイイ祭りがあり、都会的な雰囲気を持っていた。

古くてカッコイイものが市内にも郊外にも溢れていて楽しかった。綺麗なお寺がいっぱいあったし、3,333段の石段やら火山、他にもやることがいっぱいあった。例えば、宮本武蔵の人生や死に関係した場所もたくさんあって、すごく面白かった。

学園大学の授業も良かった。僕の取っていた日本語の授業はとても良かったし、学園大の一番良いところは普通の日本語で開講されている授業が取れたということだと思う。また、それが奨励されていた。

国際交流センターのスタッフは素晴らしかった。いろんな行事を企画してくれ、日本文化の実演に参加することができた。そして気が付くと、三味線や能といった日本文化のちょっとしたものをとても楽しんでいる自分がそこにいた。

学園大学に行くチャンスに恵まれて僕はとてもラッキーだったと思う。そして、いかにも観光客がするようなことをしないで、普通の生活を思う存分送ったお陰で、日本滞在から多くを得ることができたと感じている。

みんな本当にありがとう！



初めての琴体験（琴の演奏会終了後）

Amazing people

Karen Horton カレン ホートン

【2002年9月～2003年8月イギリス・リバプールジョンモーズ大学交換留学生】

Hello, my name is Karen Horton and I have just returned to England after spending one year studying at Kumamoto Gakuen Daigaku. I went to Kumamoto Gakuen Daigaku in September 2002 as an exchange student from Liverpool John Moores University, England.

Before leaving England for Japan I was very apprehensive about what lie ahead in Japan. I was the only one from my university going to Kumamoto so I was a little nervous about making friends. I already knew there were no other English students going to Kumamoto Gakuen University so knew I would have to overcome a few culture shocks! I will never forget arriving at the International Residence. I was absolutely shattered and all I wanted to do was go and hide in my room. However, my two Japanese roommates were very talkative and wanted to know every little detail about me, my family, England and just about anything else they could think of. The next day they took me to the supermarket and I bored them to death as I went up and down every aisle looking at all the amazing items (and trying to find something I vaguely recognised).

Looking back on my experience in Japan, I just think of all the amazing people I met whilst I was there. My Japanese teachers who made me laugh and tried to teach me Japanese, my roommates Kaori and Asako who helped me settle in to Japanese life, the staff at the International Office who listened to all my problems and helped me out, my new American (and Canadian) friends who made my experience so much fun and taught me the difference between chips and crisps, and cookies and biscuits etc!

I learnt so much during my year in Kumamoto and have memories that will live with me for the rest of my life. I plan to go back to visit next summer, and maybe even stay there for a year or so. Whatever happens I know that I have made some really good friends and had an amazing experience.

こんにちは、私はカレン・ホートンです。熊本学園大学での1年間の留学を終え、イギリスについて最近戻ってきたばかりです。私は2002年9月にイギリスのリバプールジョンモーズ大学からの交換留学生でした。

イギリスを離れ、日本に行く前は、日本で何が待ち構えているのかとても不安でした。私の大学から熊本に行くのは私一人だけだったので、友達ができるかどうか少しナーバスになっていました。熊本学園大学へのイギリス人留学生は私のほかにはいないことをすでに知っていたので、カルチャーショックに一人で立ち向かわなければならないことが分かっていました！

国際交流会館（留学生寮）についたときのことを決して忘れることはないでしょう。私は完全に落ち込み、ただ部屋に直行し隠れていたのですが、私の二人の日本人ルームメイトはとてもおしゃべり好きで私の家族やイギリス、そして彼女たちが考える私に関するどんな些細なことも知りたがりました。翌日にはスーパーマーケットに私を連れて行ってくれましたが、見るものすべて珍しく、すべての列を見て回っていた（それが何なのかをわかってほしいのです）ので、彼女たちを死ぬほど退屈させてしまいました。

日本での自分の経験を振り返ると、日本にいる間に会ったすべての素晴らしい人々のことを考えてしまいます。私を笑わせてくれ日本語を教えてくれた先生方、日本の生活になじませてくれたルームメイトの香織と麻子、何か起こったときに相談に乗ってくれ助けてくれた国際交流センターのスタッフ、私の生活を楽しいものにしてくれ、チップとクリスプ、クッキーとビスケットの違いを教えてくれたアメリカ人とカナダ人の新しい友人たち、etc.

熊本で私はこの1年で多くのものを学び、これからの人生で忘れられない思い出ができました。来年の夏にはまた戻ってくる計画を今立てており、もしかしたら1年以上滞在するかもしれません。これからなにが起ころうとも、親友ができ素晴らしい経験ができたことを忘れません。



Freezy popgirls (筆者は左端)

懐かしい町熊本

金美星 キム ミソン

【2002年9月～2003年2月ニュージーランド・ユニテック交換留学生】

私は高校2年生の時ニュージーランドに留学し、UNITECという大学で日本語を勉強していた。そして去年9月、UNITECの交換留学生として熊本学園大学に行った。

長い間ニュージーランドにいたので外国の生活はすぐなれると思っていた私だったが、熊本についたとたん色々な難しいことにぶつかった。

一番困ったことは自転車であった。自転車に乗れないと、どこにも遊びに行けないというのはそれまでの私にとって考えられないことだった。自転車に乗れなかった私は寮の前の小学校で毎晩一生懸命練習しなければならなかった。日本では小さい子供さえ自転車に乗れるのでとてもはずかしかったが、寮の友達に練習を手伝ってもらって1ヵ月間練習して、やっと乗れるようになった。今も覚えているのは自転車に乗れるようになった瞬間、窓から見ていた寮のみんなが拍手をして喜んでくれたことだ。それから日本の生活はもっと楽になって、朝寝や買物などができるようになった。

それから、私はもっと色々な人に出会いたいと思って、学園大のサークルに入った。私のルームメイトが入っているロックバンドに入った。ロックバンドは私が思ったよりずっと厳しかったのでびっくりしたが、部員皆さんの優しさで最後まで活動できた。私は留学生だったのに、日本人の学生と全く同じように扱われたことはその時は辛かったが、今考えると、掛け替えのない素晴らしい経験だと思う。学園祭の参

加によってサークル文化を経験し、信頼し合える仲間関係を得ることができたことは、特別な思い出となっている。ここで学んだことは社会人になってもきっと生かせると思う。

寮で出会った友達とは一緒に泣いたり笑ったり本当に家族のように過ごした。

特に、一緒に生活した日本人に熊本弁や自転車の乗り方など、いろいろなことを教えてもらって、様々な経験ができたのは素晴らしいことだと思う。

今でも自転車に乗るたび熊本のことを思い出す。ニュージーランドの涼しい風にふかれると、まるで寮から学校まで走っているような錯覚を覚える。友達に冗談で『私は前世には熊本で生まれたんだよ』と言うぐらいこの懐かしい町は私の心の中にもう一つの故郷としてのこっている。この貴重な経験を私はいつまでもわすれないだろう。



国際交流会館（学生寮）のキッチンにて

私の大切な思い出である私の留学生活

李 炯 珍 イ ヒョンジン

【2002年4月～2003年3月韓国・大田大学校交換留学生】

「こんにちは私は韓国から来た李炯珍と申します。」これが私が初めて会った人に話した言葉である。今考えたら、何だか心が暖かくなる。日本に来た時は日本語ができなく、このまま生きて帰国できるかなと思いました。だって初めての留学生活ですから。熊本は本当に静かな町であります。でも見えない情熱がある町です。九州は日本でも韓国と色々な縁があるところあります。過去の問題と今の日本は私が感じた事に対しては少し違いました。韓国で勉強した日本人は礼儀正しく、他人を先に考える国だと思いましたが、少し違いました。色々思い出になり、いろいろ考えたことが一杯ありますが、一番思い出になることは雄大な熊本の自然と日本で会ったいろいろな友達であります。

熊本は私の実家である仁川（インチョン）とはちがう静かな街でした。実家は韓国の大都市で空気が悪いところです。水道水を直接に飲んでもいいと聞いた時びっくりしました。阿蘇に行った時はもう感動しました。本当に綺麗なところで火山もある素晴らしいところでした。熊本学園大学で山岳部に入ったことも、熊本と日本の色々な山を楽しもうと思って入りました。いい雰囲気でした。阿蘇というもう一つの地球を感じてやはり人は小さな存在であると思いました。熊本の町も綺麗で人も優しいです。今は仕事で日本の都会に時々行きますが、やはり熊本が一番いいです。最高です。

日本で色々な人と出会って色々な思い出を作りました。名前は秘密です。あまりにも色々な人と出会って全部書いたら小説になるかも。。。私と一緒に勉強した人も、一緒に遊

んだ人もいろいろありますが、やはり熊本でなかったら違う思い出になりますね。皆さん熊本を大切にしてください。私は大好きです。第2の故郷であります。皆さん若い時に外国に行ってください。本当に自分の存在が小さく見えます。もっと成長します。色々な国の文化を理解し、大切にしてください。世界はもう地球を一つにして協力しなければならない時代です。他の国の文化を知れば、皆さんは一人の大使であります。日本を知らせる大使であります。私も日本で韓国を知らせるために頑張りました。熊本の雄大な自然と優しい人々は私の人生の中で大切なものになりました。時々熊本に行って、また新しい思い出を作りたいです。私にとっては熊本学園大学の先生たちも学生たちも大切です。大学4年間色々な思い出を作ってください。勉強も遊びも頑張ってください。何か感じた事があればそれでいいです。社会人になったらできないことがあります。学生の最後の時代を楽しんでください。皆さん私の思い出と一緒に作ってくださいありがとうございます。

ではお互い頑張りましょう！！熊本はよかばい！人もいいばい！だけん、大好きばい！



国際交流会館の仲間達と（筆者は前列左から3人目）

甘い社会

董 琰 ドン イエン

【2002年4月～2003年3月中国・深圳大学交換留学生】

皆さんは1999年5月神戸市須磨区で発生した少年殺害事件を覚えていますか？この事件は非常に日本全国を驚かせたことでしょう。犯人の若い年齢や匿名で声明文を出すなど日本の犯罪史上で驚異的なことと、皆さんの脳裏に浮かび上がることでしょう。また新聞によると日本全国の凶悪犯罪で少年が14%を占めているそうです。その原因は一体なんなのでしょう？

日本の法律では18歳までに犯罪を犯しても少年院に入って2・3年後に出所できるシステム、また恩赦の制度があるときいています。一方マスコミが報道するからといって、被害者のことは家族の悲しみや怒りを気遣うことなくどんどん報道しますが、加害者のことは非行少年の更生のためとっておいて写真どころか名前や出身地など一切報道しません。しかし法務省の少年の再犯状況調査を見れば、再犯者は22%で、抽出した中で半分以上占めていることがわかります。ということは少年院から出てきて、新しい人生を始めるといふより、むしろ名前を変えて変装してまた悪いことをする子供が出来るでしょう。社会や法律が甘ければ甘いほど、少年達は18歳にならないうちは何をしても許されるという心理が出てくるのではないのでしょうか？中国も勿論少年犯罪に対する刑罰は成人よりずっと軽い。とはいえ、一旦こんな凶悪事件が起きたら、少年院でより厳しい教育を受けさせて、拘束時間も日本よりずっと長いのです。本人が二度と犯罪を犯さないように犯罪記録はちゃんと保存する決まりがあります。一方マスコミも犯人の名前や年齢や顔写真まで詳しく報道します。

どちらがいいか分かりませんが、日本では被害者はもう亡くなって取り返しがつかないが、犯人はどんなに悪くても、まだ若く、これからも生きていくので、人権を守ろうとします。しかし、中国はもっと被害者のことを注意して、被害者の人権を守ります。個人として私は中国のやり方に賛成します。なぜならば前の事件を考えてみましょう。被害者の土師さん、当時11歳でも生きていれば明るい教室に座って先生の授業を聞いているはずなのに、今、一人で寂しく墓の中で寝ています。ご両親の愛情も永遠に味わうことが出来なくなりました。それに対して、加害者は2・3年後にまた社会に戻り、勉強も出来るし、家族の団欒もできます。これは、もうなくなった土師さん、その家族に対して平等でしょうか？ニコニコしている土師さん

の顔写真を見るたびに私は心の中で、このような質問をせずにはられません。

テレビ番組で、ある親は「自分の子供が夜帰らなくても全然平気だ」というインタビューを見たらまったく信じられませんでした。いくら子供を信じて、プライバシーを尊重しても親達のやり方は甘すぎると思います。中学生であろうと、高校生であろうと正しい人生観や価値観はまだ出来ていないし、親としてこの時期、子供に対して、何をすべきか、何をしたらいけないのか、きちんと教える必要があるのではないのでしょうか？何でも子供の好きなようにするなら個性を伸ばすどころか、かえって悪い道に進ませるかもしれません。以上の事実を考えると、私は日本社会、学校、両親に甘やかされている子供達の将来、その子供達が大人になった時の日本の未来を考えると心配でたまりません。自由ときまりは双子です。きまりがある自由こそ、本当の自由だと言えます。子供に自由をあげると同時にきまりを教えなければならぬと思います。どうぞ私達に厳しくしてください。



2003年8月、日系企業の北京事務所に就職した董琰さん

※第12回留学生弁論大会最優秀賞受賞

平成14年6月22日(土)に行われた、第12回留学生弁論大会で最優秀賞及びオーディエンス賞を受賞した董琰さんの弁論内容。

愛している熊本

グエン ティ タイン トウイ

【2002年4月～2003年3月ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校交換留学生】

今の去年、私初めての日本での生活だった。初めてとてもきれいな所に住んで、びっくりことがいっぱい。日本という国は私にとって理想な所だ。特に熊本の地域、熊本の人私の二つの国になった。

一年間熊本で生活し、たくさんのことを経験できた。熊本での生活、熊本での人間関係、熊本でのお正月、熊本学園大学での体育祭、弁論大会、熊本城のお祭など忘れられない思い出だった。一年間が長いとは言えないけれども熊本の人と共に日本の文化と習慣が理會でき、とても嬉しかった。

ベトナムに帰ってもう半年だったが、いつも熊本のこと思い出して、時々涙を流してしまう。熊本での自分の体験だけではなく熊本の人あたたかい心も実感した。大学での先生と国際交流会館の皆様から数えきれないほど手伝っていただき、ベトナムでの家族と友達に対する悲しみが軽くなった。それこそは熊本での一番強い印象だ！！！！！！

人の世では色々な人と出来事に出会うけど、忘れられないまでの人と出来事は少ないのではないかと思う。だから、私はラッキー人でしょう。

今からも、自分のためだけではなく、愛している熊本と熊本の人のため、頑張っている。



テレビ熊本「若っとらんど」の取材



来熊直後、民族衣裳を着て国際交流センター事務室にて
(筆者は後列左から2人目)



体育祭にて (筆者は右から2人目)

モンタナ留学が私にくれたもの

経済学部 国際経済学科 緒方 真美

【2002年8月～2003年5月アメリカ・キャロル大学へ派遣】

たくさんの希望と夢を胸に抱え私は、入学当時から夢であったモンタナ州ヘレナ市にあるキャロル大学に1年間留学しました。出発した時の自分を昨日のこのように覚えています。今思えば、あの頃は若かったな～と自然に笑いが出てきます。新しい土地で不安と好奇心に包まれながら、まるで生まれたヒヨコのようなのではないのでしょうか。

キャロル大学での生活は、20年間生きてきた中で一番刺激的なひと時でした。新しい土地で、新しい人たちに囲まれながら、毎日たくさん笑い、とても楽しい日々でした。最初の方は、とにかくすること全てが新鮮で毎日がワクワクしていました。こんな元気いっぱい私をまずどん底に落とし入れたのは、並外れた課題でした。出された課題の枚数に思わず間違いじゃないですかと確認してしまいそうになったこともありました。ショックというよりもなんだか開き直ってよくくれましたと笑みがこぼれたほどです。平日は、図書館が閉館になる夜12時まで勉強していました。それでも終わらないことがよくありました。そんな中で諦めずに入れたのは、私以上に頑張っている学生たちの姿を見たからではないのでしょうか。アメリカ人や留学生の勉強する姿勢には、正直ショックを受けたのをはっきり覚えています。彼らにもちゃんとした夢があり、それに向かって頑張っている姿を見て、自分の夢に対する姿勢を考えさせられました。世界の壁は大きいということ、日本を離れ、外の世界を見たことによって強く実感しました。そんな中、友達の支えもあって、少しずつハードな日々慣れてくるうちに勉強が楽しくなってきたのです。何事にも、知りたい、学びたいという強い気持ちが全てを動かすという事に改めて気づかされました。

休日は、毎週土曜日に老人ホームに友達と通いました。老人ホームに暮らす人々とゲームをしたり、お話したりするなどとても楽しい時間でした。毎回彼らの人生経験の話を聞くのはとてもワクワクしていました。そこで65歳年の離れたベストフレンドができました。彼女は年齢の差を感じさせないほど元気でいつも二人で冗

談を言っては爆笑したものです。大学での友達には皆、年が近かったので彼女との時間はとても新鮮なものでした。

留学中で一番心に残っているのは、大学の学生グループの一員として秋休みと春休みに行ったボランティア旅行です。秋には移民の人の農家のお手伝い、春では障害者の人たちと一緒に生活をして仕事の手伝いをしました。二つとも内容が正反対ですが、アメリカの貧困問題の現実を目の当たりにし深く考えさせられました。また障害者の人たちとの交流は私にたくさんのものを与えてくれました。人間にとって愛とは、優しさとは何であるのかを彼らから教わりました。そしてアメリカ社会ではボランティアがとても盛んで、それをする機会がたくさんあることもこれらの旅行を経験してわかりました。

留学において、英語はもちろん、勉強することは大切です。しかし勉強が全てではないことをこれらの経験が教えてくれた気がします。お年寄りや話すことによりいろんな人の人生観を見ることができたり、ボランティアにより新しい発見があったり、自分のフィールドを広げることで、得るものがたくさんあるのです。少し動くだけで新しい人との出会いもあります。「動いた分だけ、得るものがある」、これは留学中にずっと心の中にあった言葉です。この言葉のおかげで、私の留学生活がかけがえのないものになりました。前に出ることにより、次の場所を恐れなくなったのです。常にこの気持ちを忘れずに新たな目標に向かって進んでいこうと思います。



International Fairにて仲良しの友人と（筆者は中央）

「苦しみの上の苦しみ」

外国語学部 英米学科 是石 昌樹

【2002年8月～2003年5月カナダ・カールトン大学へ派遣】

留学と聞くと、ある人は楽しい異文化体験だと思ひ、またある人は大変なものだと思ふ。私にとって留学は後者から生まれる前者、つまり苦しみの上の楽しみであった。その留学のため、私はカナダの首都であるオタワへ交換留学を希望し、カールトン大学で約10ヶ月学んできた。

夏の間は夏期集中英語講座に通ひ、英語での授業に慣れるように勉強した。大学の寮に住んでいたため、同じ階の学生たちと交流をし、その間に知り合った友人たちとはこれから長い間続くであろう交友関係を築くことができた。

実際、秋と冬の2学期の間はストレスを抱え込み、好きなことを学んでいるとはいえ苦しいと思つたことも幾度かあつた。完璧とは程遠い英語力でどのように効率よく勉強ができるかということに常に考え、試行錯誤して、自分にとって有効な方法を考へてみた。その結果物事をうまく行つたための、自分なりの方法が少しずつ出来てきたことは自分にとって満足できることだつた。これは苦しい状況でこそ出会えた経験からの知恵となつたと思ふ。

留学につきものの異文化環境というのも、困難なものの一つであつた。日本で英会話をしているときにはまず出会えないその文化特有の振る舞ひに、どのように対応してよいのかよく考えさせられた。また、言語からくる劣等感を感じ、授業での不安も加わつて、情けないことが胸を張つて行動できなかつたこともあつた。しかし、そこで考へたことで生まれる答えもあつた。それは、異文化を考へながら自分の能力で出来ることを精一杯するということだ。異なる背景を持つ人と比べていたら足りないものしか目に付かなくなつてしまふ。しかし、自分にあるものを活かすことが出来れば多少のハンディキャップは関係のない問題になつてくる。無いものねだりでなく、あるものを大事にするという目の向け方を私は忘れていた。

ここまでの話では苦しいことばかりのように聞こえるが、実際は楽しみも多くあつた。中でも夏の間に来た友人たちとの交流は、今すぐにもカナダをまた訪ねたいと思ふ理由のもとになつていふ。真冬の寒さにも拘らず一緒にモントリオールへ旅行をしたこともある友人とは、

話もふざけたことから勉強の話など非常に多くのことを深く話した。また共通の趣味であるギターを演奏したり歌つたりもした。音楽はやはりどこにいても通じ合うものだと思つた。別のカナダの友人とも、家を訪ねて皆で集まり賑やかな時間を過ごしたりした。今まで友達付き合いを得意としていなかつた自分とは思えないほどそれらを楽しんだ。きっと皆が私に対して壁を作ることなく温かく接してくれたからだと思ふ。英語圏では引越してきた人に対して住民の人達の方が挨拶をしに来て迎え入れてくれると聞いたことがあるが、それと同じように、皆がその土地に慣れていない私を積極的に迎え入れてくれたことが大きかつた。始めにコミュニケーションの壁を低く感じる文化はこの時にはうまく働いたと思ふ。もちろんすべての人がそうではないだろうが、それでも素晴らしい人達に出会えたことを嬉しく思ふ。

人は苦しい環境におかれると必然的に考へざるを得なくなる。苦しい思いをすることが嫌いな人は多いが、それは後に生まれる充実感、楽しさをもたらしてくれると私は確信している。若いときの苦勞は買つてでもするべきだという言葉は言われただけでは実感しにくかつたが、今では自分の経験と照らし合せてみてまさにその通りだと思ふ。その苦しみの中で、この留学は大事な友人たちの存在によって支えられ、その経験はいつまでも私の心に焼きついたまま残つていくだろう。



クリスマスのイルミネーションを見に行った際に親友と（オタワ市内）

Get's

社会福祉学部第二部 社会福祉学科 黒木 珠美

【2002年9月～2003年6月イギリス・リバプールジョンモーズ大学へ派遣】

私が日本を離れている間 Get's という言葉が流行ったようだ。どんな意味で使われているのかわからないが、私の留学生活を表す一言にぴったりだと思う。私は社会福祉学科で学ぶ傍ら、英語を話せるようになりたい、海外で暮らしてみたいという思いをずっと持ち続けていた。今回、様々な偶然と幸運にめぐり合い実現することができた。自分が生まれ育った国とは違う文化の中で様々な国籍の人達と共に生活をするということは、新たな自分と新しい世界観の発見であった。英国北部の港町リバプールに着いてすぐは以前に住んでいたロンドンとは違った雰囲気、ちょっと物騒で英語の発音も特別な静かなこの街で暮らしていけるかと不安になった。しかしはじめに感じた物騒さもおおらかな街の人達の特徴だけであり、実際はそんな不安を吹き飛ばすかのような刺激的な毎日だった。初めのうちはなかなかコミュニケーションが取りにくかった外国人の友人たちとも徐々に親しくなり、数ヶ月もするとずっと前からの友人のようにお互いの郷土料理を教えあったり、夜遅くまで折り紙をしながら語り合っ、共に泣いたり笑ったりしていた。風邪気味だと言うと各国の民間治療法や予防法をアドバイスしてくれ、ある時は高熱を出した友人を救急病院へ連れて行き、診察を待っている間病人の本人も一緒に友人たちとおしゃべりをし過ぎて怒られてしまったのも、今となってはいい思い出だ。休みの合間には地元のサッカースタジアムへ出かけ、世界的に有名なベッカムやルーニーのプレイを目の前で見ることができたのも、本場イギリスならではの体験である。試合もさることながら、試合結果に一喜一憂するチームのサポーターの熱狂的な応援には驚かされた。中国人の選手が活躍しているチームを応援していたのだが、私のことも中国人と思っ自分達の仲間として受け入れその選手を絶賛してくれたのは複雑な心境ながら、同じアジア人として嬉しかった。冬休みには友人と計画をしてヨーロッパ旅行へ出か

けた。真冬に北ヨーロッパへ旅行をするなんて勇敢だ！と驚く人もいた。しかしあまりの寒さに笑いがこみ上げてきたりしたが、スウェーデンの友人宅にお世話になって美しい雪原の朝焼けを見たり凍った川を歩いて渡ったりと、この時期しか味わうことの出来ない貴重な経験ができた。

出発前の事前研修を受けるごとに、こんなに英語ができない私が英語を専門に学ぶ学生と共に留学することに不安に感じ辞退しようかとも考えた。しかし働किながら学んでいるというバイタリティーは海外生活への適応性にもつながってくるのか、日本以外でも生きていけるとまで思えるほどであった。また日本人だけでなく外国人の友人達に支えられ、人と関わり合うことの素晴らしさを改めて知った。そして日本にいと出会うことができなかつたであろう大切な人たちにめぐり合うチャンスを Get's。さらに、もっと英語が理解できれば授業ももっとおもしろいのにと歯がゆい思いもしたが、新しいこと困難への挑戦することの楽しさも Get's した。国際経済学科や英米学科で学んでいる学生に比べ苦勞も努力の必要性も多かつたと思うが、そうしてがんばれたことは大きな自信となった。最後になりましたが、新しい世界観と自分を見出す機会を与えてくださった大学関係者の皆様、そしてイギリス滞在中支えてくださった国際交流センターのスタッフの皆様から感謝いたしております。



(筆者は後列右から3人目)

留学先での財産

外国語学部 英米学科 中村 恵美

【2002年2月～2002年12月ニュージーランド・ユニテックへ派遣】

私はこの度平成14年度の長期交換留学生として、ニュージーランドのユニテックへ派遣されました。

留学を始めて3ヶ月が過ぎた頃、何かを始めたかったのでボランティアをすることにしました。土曜、日曜は毎週、近所の老人ホームに通い、お手伝いをしました。仕事を始める前に、オリエンテーションに参加し、老人の病気や老人に対する接し方を学びます。老人ホームに住んでいる人もボランティアに参加しており、お互いに助け合っている場所だという印象を強く受けました。私は喫茶店の中で飲み物や食べ物をお年よりに売っていました。80歳くらいのおばあさんが毎週通っていて、彼女はもう流暢に話すことさえできませんが、テーブルにお茶を持って行った時には必ず、どんなに話すことが辛くても、「Ta. (ありがとう)」とっていました。その言葉以外を、彼女の口から聞いたことはありません。「ありがとう」と、感謝の気持ちを表現することの大事さを彼女に教えてもらいました。

この留学中、私はホームステイ、フラット、寮という全ての滞在方法をしました。中でも、1番住み心地が良かったのは寮生活でした。私の場合、語学留学のためなかなか現地の友達を作れないのは悩みの種でした。友達を作ろうとして、始めたフラット生活も思うように上手くいかずとうとう家を出て、しょうがなしに寮に入ったのですが、寮はまさに私が求めていた場所でした。寮の生徒は半分がニュージーランド人、半分がアジア人とバランスが良く、いつも穏やかな雰囲気です。現地の友達はもちろんのこと、フィジー、インド、ベトナム、フィリピン、アフリカ、韓国、中国の友達を作ることが

でき、彼らを通じてまた新たな世界、文化を見ることができました。特に、寮でマオリ人（ニュージーランドの先住民）の友達が出来た事はこの留学で大きかったことだと思います。

この留学で1番の財産となったのは、この信頼できる友達がたくさん作れたことです。国や文化がたとえ違っていても、人間としての考え方は世界共通だと強く感じる場面がよくありました。私は何か問題があると、よく友達の前で泣いていたのですが、そんな時は友達が必ず抱きしめてくれました。日本の習慣では、友達同士が抱きしめるというのはまずありませんが、友達として支えになってあげたいと思うことは当然あると思います。その同じ気持ちで、ニュージーランドの友達が私を支えてくれたことが、何よりも嬉しかったです。このような友達がいなかったなら、私の留学は「辛かった」だけで終わっていたかもしれません。ですので、留学先で出会った人たちには、大変感謝しています。

また、この留学を最後まで応援してくれた両親、友達、その機会を下さった熊本学園大学、困った時にはアドバイスを下さった国際交流センターの皆さんにも心から感謝しています。ありがとうございました。



クリスマスパーティにて（筆者は右側）

最良の選択

外国語学部 東アジア学科 安達 知子

【2002年3月～2003年2月韓国・大田大学校へ派遣】

「これから一年間、私は韓国で生活するんだ！」と意気揚々と韓国の地を踏みしめた私の留学生活は、思わぬ悲劇から始まりました。留学生活を始めて一週間が経った頃、知人に誘われて行った居酒屋で「これ美味しいから」とすすめられ、得体の知れない物を食べました。唐辛子味噌で真っ赤に味付けされた「それ」は、後で聞いてみると「鶏の足」だったのです。しかしその事実を知った時には既に手遅れで、その日の晩から猛烈な腹痛と嘔吐を繰り返し、深夜遅くに病院に担ぎ込まれ、お尻に大きな注射を打たれました。病院の先生からは「なんでそんな物食べたの！」と嚴重注意を受け、深く反省しました・・・。

大田大学校は、一つの建物が大きく、裏には山があり、校内には芝生や緑が多く所どころにベンチが備え付けてあり、学習の場とのびのびと自然に触れられる場とがうまく調和した学校でした。授業は現地の学生と共に受けるので、言葉の壁もあり勉強についていくのが大変でしたが、多くの友人や先生方が支えになって下さいました。体育学部の授業とは知らずに受講を決めた体育の授業は、パートナーと二人一組で筋力トレーニングをするというものでしたが、パートナーは授業中や試験の際にも細かく気を使って、中間考査では体中の筋肉の名称を全て覚え、満点を取った時の喜びは言葉にならない程でした。

韓国で体験した一番の思い出は、お盆を一般の家庭で過ごした事です。韓国の盆は昔ながらの伝統をそのまま受け継いでいます。私がお世話になった家庭が山奥の田舎にあったせいかも知れませんが、本家には親戚が一斉に集まって、ご先祖様へのお供え物は山から採取します。お供え物のお餅やお菓子も手作りでした。家には浴室が無く、竈で沸かしたお湯で行水をし、オンドル部屋は竈で火を焚いて部屋を暖めるという、現代社会の生活からは考えられない昔そのままの生活を体験しました。韓国は以前、日本の植民地にあった悲しい現実がありますが、そこではお年寄りの方達が「遠くからよく来たね。何も無い所だがゆっくりして行きなさい」と笑顔で私の手を握って下さいました。私は嬉しさより何より驚きを感じていました。勇気を出して「日本人が嫌いではありませんか？」と尋ね

ると、「それはもう過去の話だよ。これからは若い人たちがうまくやってくれよう」と言っただけで、私はこぼれる涙を抑えることが出来ませんでした。田舎で迎えたお盆は多少不自由なこともありましたが、普通ではなかなか出来ない貴重な体験をしましたし、強く心に残りました。

一年という限られた時間内で、私はどれだけの事が出来るのかを常に考えていました。勉強も一生懸命に、遊びも一生懸命に。やるべき事は山ほどある、そんな事を考えながら私が徹底した事は、とにかくたくさん映画を観る事です。ジャンルを問わず、様々な映画を観ました。韓国映画は聞き取りの訓練になるし、外国映画は韓国語の字幕を素早く読み取る訓練となって、効率よく韓国語能力を身に付ける事が出来ました。留学中に映画館で観た映画は30本近くに及びます。夏休みに着の身着のまま夜行列車に乗って釜山へ一人旅をしたこと。休日に遊びに行った先で巨大台風遭遇したこと。とにかくどんな事にでも挑戦してみて、そこで得た自分だけの貴重な経験が結果的に生きる活力と自身に結びつくのだという事が、一年間の留学で学びとった一番の大きな成果だと思います。大学生活の一環として長期交換留学をしたことは最良の選択でしたし、この一年の経験や実績は、人生のあらゆる場面でプラスの方向に働きかけてくれることでしょう。

最後に、私に留学の機会を与えてくれた学園大学、色々とお世話をして下さった先生方や国際交流センターの方々、いつも私の支えとなり応援して下さいました多くの皆様に心から感謝致します。



文化祭での留学生レストラン（筆者は右から2番目）

ああ中国留学

経済学部 国際経済学科 平成15年3月卒業 瀧上 達也

【2002年3月～2003年2月中国・中国人民大学へ派遣】

では、いきなりですが私の留学をざっと紹介してみましょう。

まず、中国に着いて（中国人民大学）から一体どのような人がルームメイトになるのかドキドキします、そしてなんともあっけなくその人と出会い（私のルームメイトはラオス人のいい人でした）、それから一年間の付き合いが始まります。

そうこうしてると、授業が始まりだして、中国語を勉強する意欲満々の3ヶ月程が始まりました。その3ヶ月は、寝ても起きても中国語でしたね。

そして、勉強の意欲も減りだすと同時に進歩のなさに自信を失いだして、悩みだしたりしました。

その頃から、外国人の友達がちゃんとできて遊んだりし始めます。そうすると、中国語で話しますので自然と中国語も少しずつ進歩してきます（しかし、まだ下手）。

半年ぐらいの時には夏休みもあり旅行に行きたくなってきます。旅行は文化や風土に触れる為にも、また友情を深め意外な出会いを求める為にも是非行くべきです。

そうして、2週間から1ヶ月の旅行も経てなんとなく中国通になったような気がして、失いかけていた意欲と自信を取り戻します。

そうして、後半が始まり前半の反省とともに後半 HSK（中国語レベル試験）に向けての勉強が始まります。

そうして、半年が過ぎる頃からやっと中国人の友達ができたりします。（私はそうでした）

HSK に関しては人それぞれでしょうが、今の資格社会を考えればもっていて損はしませんし、8・9級を目指して勉強しないと中国語もやはり本当の意味で上手くもならないのではと私は思います。私は HSK の準備をしながら自分の弱点を知り、それを補うことができましたから、8級が取れてうれしかったですし、またその時のしっかりと基礎固めの勉強が今でも中国語を容易に忘れさせないことにつながっていると感じています。

HSK が終わってからは、本当に中国生活を楽しめだす頃じゃないでしょうか、語学のレベルもそれなりに備え、日常会話にも問題がなくなってきました。

それから心のゆとりができ、本当に自由に外国生活を満喫できるようになっていきます、どこに行くにも何を食べるにも、伝えたいことも

伝わりますし（中国語上手になったなと自分で感じる時期です、でも実際はまだまだ下手なんですけど）。

私の場合にはそれから就職活動が始まりましたから、毎日ネットで職探しや、北京、上海で開かれたセミナーや合同面接などに参加したり、南方の日本企業の工場などを見に行きました、そして、最後はネットで応募した東京にある貿易会社に面接で受かり採用になりました。

就職は留学が始まった頃から考えていました。そして、夏に一度日本に返った時に学校の就職課を訪ねもしました、しかし、この不況に大した情報など得ることもできず結局中国に帰ってからの就職活動は行き当たりばったりの、八方塞の、てんてこ舞いの状態でした。しかし、私には留学の1年間を自分が満足いくものにできたという自信が常にありましたのでその気持ちがひたすらに私を前進させたのだと思います。

そして、もちろん日々の生活がありますし、又たった1年にも満たない日々ですから1日1日を満喫しないともったいない。

私はルームメイトと最高に仲がよかったので、本当に楽しい日々でした。

そして、中国拳法も習いに老師の所に通ったりしたのもいい思い出です。（毎日ボコボコにされてましたけど）。

そして、留学が終わる頃はきつともっと残りたいと誰もが思うでしょうね、そして、そう思えるぐらい中国を楽しめるようになっていけばきつといいんじゃないでしょうか。

ざっとですが私の一年間と意見とを述べされてもらいました。そして、最後に留学を希望されて方には是非積極的に挑んでもらいたいと思います。それでは。



「体験してみてもわかるものがある」（筆者は手前）

挑戦することの大切さ

経済学部 国際経済学科 満崎 理恵
【2003年2～3月イギリス・リバプールジョンモーズ大学へ派遣】

私にとってイギリス留学は大学生活においても私自身においても大きな挑戦でした。就職や大学生活、卒業に悩む4年生という大切な時期を迎え、それでも学生最後のチャンスと思い留学を決意しました。イギリスで2ヶ月間の生活から何よりも感じたことは悔しさ。まだまだ英語力が乏しかった私は、伝えたいことが言葉として出てこないもどかしさを何度も何度も感じました。この悔しさこそが、帰国してから、もっと英語を勉強しようと思つた原点でした。それでもイギリスでの生活は充実しており、大学から毎回出される宿題に悪戦苦闘したこと、時間を忘れ伝統的建築物や美術館などを歩きまわったこと、ジョークをいって笑わせてくれるホストマザーや日本食が恋しくなり早朝に友人と中華街に走ったことなど今でも鮮明に思い出されます。またパブに行けば様々な外国人留学生たちと騒ぎ、将来のことや夢、恋愛など、どこの国に生まれ地球の反対側にいようと思うことは同じなのだと思つた小さな安心感を覚え、一方で彼らから生活や人生に対する価値観を教えられたような気がします。約2ヶ月間、毎日毎日が新鮮で楽しかった日々、これらの時間を共有しあった友人達、何度も感じた悔しさ、全てが私の大切な財産です。そして、イギリス留学を得て思うことは、挑戦することの大切さ。失敗を恐れず何事も情熱を持って挑戦すること。単なる憧れや夢だけで終わらせず向かい合い挑戦することは今回の留学だけではなく、これからの自分自身やその後の人生において重要なことだと思つています。あの時感じた悔しさを忘れず心に留めておくこと。留学から学んだ情熱と挑戦は今の自分を成長させ、これからの将来に大きく役立っていくのだらうと確信しています。



ホームステイ先にてホストマザーのエレンと

『留学体験記』

外国語学部 英米学科 中山 憲
【2003年2～3月イギリス・アルスター大学へ派遣】

この度、私は短期派遣留学生として北アイルランドのアルスター大学に留学させて頂きました。2ヶ月という短い間ではありましたが、体験したこと、感じたことを記したいと思つています。皆さんはアイルランドと聞くと、恐らく「危険な土地」と考えることでしょうか。プロテスタントの北、カトリックの南という宗教上の対立、IRAによるテロ、正直、私も治安の面は心配でした。そこで、どうしても心配だったので、ホストマザーに尋ねてみたところ、最近是比较的穏やかであるとの事だったので安心しました。実際、トラブルに巻き込まれたりするようなことはありませんでした。逆に、穏やかで親切な国民性を感じました。よく、困ったときに親切にして頂いたものです。固定観念とは大きな障壁と成りえます。「百聞は一見にしかず」とはよくいったものですね。

もちろん、留学生活中は英語のみを話して意思疎通を図らなければならず、最初は戸惑いました。文法を意識してみたり、難しい単語を思い出してみたりとしていたので、結果的に、コミュニケーションに支障をきたしていました。つまり、私は間違いを恐れていたのです。しかし、せっかく留学させてもらったのに、話すことに対しネガティブになっていては意味がありません。そう自分に言い聞かせ、間違いを恐れず、とにかく話すよう心がけました。すると、次第に慣れてきたのか、間違いも減っていきました。活発に話そうとする心構えが英会話上達の鍵であると思つています。

この留学が実現したのは多くの人の助力があったからこそです。矢澤さん、国際交流センターの皆様、リサさん、クレアさん、並びに両親にこの場を借りて謝意を表させて頂きたいと思つています。本当にありがとうございました。



日本人留学生向けの授業にて（筆者は後列左端）

熊本への一年間

大田大学校 趙 允 來

【2002年3月から1年間交換教員として受入】

若い時代東京で長年住んだ経験のある僕にとって、熊本という所の一年間はさほど魅力はなかった。それに自分の専攻のない学園大学なら尚更である。にも拘らず高3になる息子までつれて来たのは誰が考えても一種の冒険に近い。勉強より遊びが大好きな息子にのんびりする時間を与えた結果になったわけである。学校に入れることもできず、息子は日本語を少し習うこと以外はまるっきり自転車で熊本市内を一周するのに時間を費やしていた。友だちもいないやつが可哀想に見えおこづかいを少しあげるとそれであちこち漫画を買いに自転車を走らした。タイヤがぼろぼろになり一回はかえてやったくらいである。

このことを話したいのではなく、問題は無理

やりに連れてきた息子の意識である。今こどもに熊本の一年の浪人生活のことがどうだった？後悔しない？と聞いて見たら返事は簡単である。“よかった”と。

で、何がよかった？と聞いたら、のんびりができたのはいうまでもないが、理由を要約すれば、現場体験である。教室でならった日本はあまり良いイメージではないが、目で確認した日本という国はすばらしかったということでした。

こどもが見た日本はごく一部にすぎないが、それにしても正しい理解は将来両国の親善の為に大事なことです。ちょっと窮屈であるが、この欄を借りていろいろ世話になった学園大学の皆様に感謝の意を表します。先生方、職員方、特に国際交流センターの方に。



研究室にて

谢谢！学园大学

深圳大学 孙利群

【2003年3月から半年間交換教員として受入】

早就听说熊本是个山清水秀,美丽如画的“世外桃源”。真的是“百闻不如一见”。阿苏山的壮观令人叹为观止,天草的水波粼粼令人流连忘返。中国有句古话,“智者爱山,仁者爱水”。而熊本山水相映,可谓人杰地灵。

坐落在如此优雅环境中的学园大学,自然具备了得天独厚的发展条件。而60年的历史沉淀更有许多可贵之处值得学习和借鉴。

使我获益匪浅的是学园大学的图书馆。这里不仅设备齐全,藏书多多,而且还有热情周到的馆员,他们耐心的指点给了我很大的帮助。

还有丸善书店的员工们,他们花费了大量时间和精力为我订购图书。如今回到深圳,每每捧起书本,总是回想起他们对工作的认真态度。

当然,还有国际交流中心的各位,是他们在生活,学习及工作方面给予了我无微不至的关心和照顾。甚至在台风来临之际,也没忘记及时提醒我注意安全。

最后,还要感谢东亚学科的各位老师。之所以能圆满完成教学任务,多亏了他们的指导和提携。

半年的交换教师生活,匆匆而过。学园大学清新的校园,稳健的学风,深深地感染了我。我将把这些珍贵的记忆,深厚的友情带回深圳大学。也希望熊本学园大学的老师们到深圳大学来走一走,看一看,这里也有很多精彩点。

熊本は、山紫水明、画に描いた「桃源郷」のように美しいところであるとつとに聞いておりましたが、まさに「百聞は一見にしかず」でした。阿蘇山の壮観な姿、天草のよせくる波は、感嘆をもらさずにはおられませんでした。中国には昔から「仁者は山を愛し、智者は水を愛す」という言い方があります。熊本は自然に恵まれ、代々傑出した人物を輩出しています。

このような優れた環境にある熊本学園大学は、いながらにして恵まれた発展の条件を備えており、創立60年の歴史の重みは、多くの貴重な学ぶべきもの、見習うべきところを語っています。

私は、熊本学園大学の図書館のサービスをおおいに享受させてもらいました。設備が整っているだけでなく、蔵書数もたいへん多く、その上図書館職員の方々には熱心でゆきとどいたサービスを頂き、ゆっくりと一つ一つ対応してもらったことはたいへん助かりました。

大学の書店も私が注文した大量の書籍の取寄せに多くの時間を費やさされ、いま深圳でその一冊一冊を手にとる度に書店の方の熱心な仕事ぶりを思い出しています。

国際交流センターの皆さんから私の生活、授業や研究などにおいてゆきとどいたお世話を頂いたことはもちろんのことです。

最後に、外国語学部東アジア学科の先生方に感謝申し上げます。担当授業を無事終えられたのも、先生方の御指導と御支援のおかげです。

半年間の交換教員の生活は、あっという間に過ぎてゆきました。熊本学園大学のさわやかな気持ちのいいキャンパスや落ち着いた学風は、私のなかに深く染入っています。この大切な思い出、厚い友情を深圳大学へ持ち帰ります。熊本学園大学の皆様も機会がありましたら、ぜひ深圳大学へお越しください。とても暑いところがありますが、活気あふれる、新しい大学です。



国際交流センター事務室にて

心のふるさと、木浦

商学部 助教授 船木 高司

【2002年9月から半年間交換教員として韓国・大田大学校に派遣】

折にふれ心に浮かぶいくつかの歌が誰にでもある。私について言えば、そのひとつはなんと言っても韓国演歌を代表する、“木浦の涙”である。

この歌を初めて聴いたのは、交換教員で熊本にいられていた趙相根先生を家にお招きした時だった。当時は韓国語がまだ一言も聞き取れなかったがそれでもその旋律に私はひきつけられた。先生はそのとき、眼をつぶって確か3番まで歌われた。

5年前、韓国で生活した1年の間に、この歌を何度か耳にする機会があった。日本のNHKにあたるKBSに、懐かしい歌を聞かせる歌謡舞台という番組があって、そこでいろんな歌手がこの歌を唄った。KBSにはもう一つ、ヨルリンウマクェ（公開音楽会）という人気番組があるが、この番組が木浦開港100周年記念に木浦の野球場から中継されたとき、韓国の国民歌手といわれる李美子が、何万人もの聴衆を前にこの“木浦の涙”を唄った。

この歌に唄われた木浦をいつか訪ねようと思いつながら前回は果たせなかったが、このたびの滞在で初めてその木浦を訪ねることができた。

ところで、大田には韓国人ならこれまた誰もが知っている“大田ブルース”という大ヒット演歌がある。大田駅前広場にはその歌詞を刻んだ大きな石碑が建っているが、そこに“大田発0時50分”の“木浦行緩行列車”というくだりがある。早速、時刻表を開いてみたが残念ながらそんな列車は載っていない。しかし、大田発6:20の木浦行の列車がまだ残っていた。早速、旅行会社に予約に行くとそんな列車は無いという。確かに時刻表で見たというが大田駅に電話で確認してくれた。それによると、コンピュータでの発券ができないので窓口で乗車券を買ってくれという。

当日、まだ暗いうちに駅にでかけると乗車券は確かにあった。今ではもう骨董品の部類に入る硬券である。改札口でそれに挟みを入れてもらって、そのとき一緒にその列車に乗ったのは私と、お母さんに連れられた小学生くらいの姉妹、それに中年のおじさんの5人だけだった。

5時間かけて到着した木浦は、鈍行列車で訪ねるにふさわしい南の果ての港町であった。降り立ったプラットホームの先にはもう線路は無かった。

駅の案内所でもらった地図を頼りに、歌詞に出てくる儒達山の麓を目指した。まもなく、バスの左手に海が見えてきて、車内には海のおいがいっぱいにあふれてきた。

バスの終点は国立の木浦商船大学校の前で、そのすぐ背後にそびえる岩山が儒達山であった。南に面した斜面を頂上に向かってゆっくり登ってゆくと明るい日差しの中に韓国では珍しいイチジクの木が所々に植わっている。さすがに全羅南道は南国である。登るにつれ、眼下にはふるさと瀬戸内海に似た海の光景がひろがり、行き交う船もなんだか懐かしい。

儒達山は韓国で典型的な岩山である。ところどころに展望所ができていて、木浦市内や市の前面に広がる海が一望に見渡せる。そこからは歌詞に出てくる三鶴島や榮山川も見渡せた。三鶴島は今は埋め立てられ陸続きになっているようである。また、下山の途中にここが露積峰という案内があって、ビルで三階建てほどの直立した岩が立っていた。

驚いたことに途中、どこからか“木浦の涙”が聞こえてくる！なんと木浦市が“木浦の涙”の石碑を建てていて、その中からエンドレスでこの歌が流れてくるしかけになっている。側面には歌詞の変遷が分かるように3種類の歌詞が刻んであった。

今回は時間がなかったので駆け足だったが、木浦駅に降り立ただけで満足だった。次の機会に思いが残るほうが旅人にはふさわしいのかもしれない。

今、記念に持ち帰った乗車券を見てみると大田から木浦まで料金はわずか5,800ウォン（≒580円）である。あの鈍行列車が無くならないうちにまた木浦を訪ねたいものである。



モッポエヌムルの碑



新生歓迎ピクニック



幼稚園クリスマスパーティー



フェアウェルパーティー



体育祭



学園祭



あややん着物姿



そば道場

国際交流写真館

鮎瀬大橋



2003年海外往来

	交換留学生・教員（派遣）	交換留学生・教員（受入）
1月	ユニテック（中村恵美・佐藤善高）帰国	
2月	大田大学校（船木高司商学部助教授）帰国 大田大学校（長田真似子・安達知子・池辺千夏）、深圳大学（田中尚美・宮本清香）、中国人民大学（瀨上達也）、北京語言大学（中野由加里）帰国 ユニテック（中嶋佑一郎・野々口香織）、中国人民大学（熊永憲）、北京外国語大学（大川内良太）出発	大田大学校（趙允來先生）帰国 ユニテック（金美星）、大田大学校（李炯珍・權一訓・康安洙）、ベトナム国家大学（グエン ティ タイン トゥイ）帰国
3月	ラトロープ大学（田村早都子・上田梨世）、大田大学校（大道美妃・岩井優子・大洞時子・奥田瑠美）、深圳大学（村山恵美・澤田麻梨子）出発 大田大学校（野間重光商学部教授）出発	大田大学校（朴喜南先生）、深圳大学（孫利群先生）来熊 深圳大学（董琰・曾麗穎）帰国 大田大学校（朴鐘順・黃晶民・韓美貞）、リバプールジョンモーズ大学（ローラ ウォード、レイチェル ブリッジ、ダニエル アヌート）来熊
4月	アルスター大学（坂口千晴）帰国 深圳大学（村山恵美・澤田麻梨子）一時帰国	大田大学校（崔珍美）、深圳大学（劉思思・羅燕雯） ベトナム国家大学（グエン ティ ミン ロイ）来熊
5月	モンタナ州立大学（北野阿弓・小野千賀子・田中麻紀子）、モンタナ大学（加藤裕助）、キャロル大学（緒方真美・安達佳世）、セント・メアリーズ大学（緒方広子）、カールトン大学（是石昌樹）、インカーネットワード大学（田中晶子）帰国 中国人民大学（熊永憲）、北京外国語大学（大川内良太）一時帰国	
6月	リバプールジョンモーズ大学（岩下祐子・森山貴裕）、アルスター大学（吉井由美）帰国	
7月	リバプールジョンモーズ大学（黒木珠美）帰国 カールトン大学（下城由紀子・遠山由子）出発	リバプールジョンモーズ大学（ローラ ウォード、レイチェル ブリッジ、ダニエル アヌート）、カールトン大学（ダニー ゴーニ）、ユニテック（林滙映）、インカーネットワード大学（オーランド ラッキー、カレン ペダロザ／市派遣）帰国
8月	モンタナ州立大学（河島悠里・中間大博・海津レイ）、モンタナ大学（川原綾）、キャロル大学（山口真理子）、インカーネットワード大学（本田美香／市派遣）、ウィスコンシン大学オークレア校（桑本理多可・荻野順子）、セント・メアリーズ大学（中矢智子）、中国人民大学（熊永憲）出発 モンタナ大学（金栄緑経済学部助教授）出発	リバプールジョンモーズ大学（カレン ホートン）帰国 深圳大学（孫利群先生）帰国
9月	リバプールジョンモーズ大学（田邊亜弓・渡邊衣美）、深圳大学（村山恵美、澤田麻梨子）、北京外国語大学（大川内良太）、広西師範大学（前田麻美・寺本好見／市派遣）出発	モンタナ州立大学（フィル ジョンソン、ミノット プライヤン）帰国 モンタナ州立大学（トリスタン ヴィック）、キャロル大学（金暎珍）、インカーネットワード大学（クリスティーナ スクノーバー、バトリック ミラー／市派遣）、セント・メアリーズ大学（コリン レニー、マーク・クロスビー）、ラトロープ大学（レベッカ リー、レベッカ ウォール）、ユニテック（フィリップ ウィルケス）来熊
10月		チュラロンコーン大学（クラウキチクル・プフルツチパン）来熊
11月		インカーネットワード大学（クリスティーナ スクノーバー）帰国
12月	ラトロープ大学（田村早都子）、ユニテック（中嶋佑一郎）帰国	

短期派遣・研修団	その他	
		1月 2月
リバプールジョンモーズ大学、アルスター大学、ユニテックへの短期派遣留学生（10名）出発		
リバプールジョンモーズ大学、アルスター大学、ユニテックへの短期派遣留学生（10名）帰国	国際交流委員長一行ラトローブ大学・ユニテック訪問	3月
	インカーネットワーク大学ルイス・アグニースイ Jr.学長来熊 4/18	4月
	リバプールジョンモーズ大学秦健一郎先生来学 5/9	5月
大田大学校研修団来学 6/26	オークランド大学マーティ・バレット氏来学 6/12 大田大学校劉載一国際交流委員長来学 6/26	6月
大田大学校研修団帰国 7/18	大田大学校教職員研修団来学 7/13 経済学部外国事情研修出発 [ニュージーランドコース 7/15、韓国コース 7/10] 外国語学部海外研修出発 [ニュージーランドコース 7/16、韓国コース 7/28]	7月
	経済学部外国事情研修帰国 [ニュージーランドコース 8/12、韓国コース 8/8] 外国語学部海外研修帰国 [ニュージーランドコース 8/13、韓国コース 8/25]	8月
		9月
	梨花女子大学校権赫珉氏来学 10/14 国際交流委員長一行カールトン大学、セント・メアリーズ大学訪問 ビクトリア大学サイモン・ホッジ氏来学 10/20	10月
	日韓交流「熊本デー」学生参加（関本彰子・桑野大司・宮嶋崇裕・五嶋亜佐美）[11/18～11/21] （熊本県国際協会主催）	11月
		12月

2003年度出身国（地域）別外国人留学生数

（2003年5月1日現在）

	学部留学生 Undergraduate					研究留学生 Undergraduate Research	大学院生 Graduate				交換留学生 Exchange	合計 Total
	1年	2年	3年	4年	合計		1年	2年	博士	合計		
中国 China	22	13	10	10	55	2	7	2	1	10	2	69
韓国 Korea	1				1						5	6
アメリカ U.S.A.											4	4
カナダ Canada											1	1
イギリス U.K.											4	4
ベトナム Vietnam		1			1						1	2
合計 Total	23	14	10	10	57	2	7	2	1	10	17	86

2002年度本学留学生の奨学金受給実績

奨 学 金		応募	採用
1. 私費外国人留学生学習奨励費	学部留学生	34	9
	大学院生	1	1
2. 熊本県外国人留学生奨学金	学部留学生	25	7
	大学院生	1	1
	学部研究留学生	2	0
3. ロータリー壽崎奨学金	学部留学生	33	2
	大学院生	0	0
	学部研究留学生	4	1
4. 在熊外国人留学生ライオンズ クラブ奨学金	学部留学生	15	2
	大学院生	0	0
	学部研究留学生	1	0
5. ロータリー米山記念奨学金	学部留学生	0	0
	大学院生	1	1
6. 肥後銀行国際交流奨学金	学部留学生	21	2
	大学院生	1	0
7. 国内採用による国費外国人留学生	学部留学生	0	0
	大学院生	1	0
8. 公益信託水野次郎記念留学生奨学基金	大学院生	1	0
9. 平和中島財団外国人留学生奨学金	学部留学生	1	0
	大学院生	5	0
採用者合計			26

◇各種奨学金受給者合計

学部留学生	22名
大学院生（含継続1）	4名
学部研究留学生	1名
合計	27名

2002～2003年度交換留学生名簿

アメリカ 【2002年9月～2003年7月】 フィル ジョンソン、ミノット プライヤン、 オーランド ラッキー、カレン ペドロザ 【2003年9月～2003年11月】 クリスティーナ スクノーバー 【2003年9月～2004年3月】 金暉珍 【2003年9月～2004年7月】 トリスタン ヴィック、バトリック ミラー
カナダ 【2002年9月～2003年7月】 グニー ゴーニ 【2003年9月～2004年7月】 コリン レニー、マーク クロスビー
イギリス 【2002年9月～2003年7月】 カレン ホートン 【2003年4月～2003年7月】 レイチェル ブリッジ、ローラ ウォード、 ダニエル アヌート
オーストラリア 【2003年9月～2004年2月】 レベッカ ウォール、レベッカ リー
ニュージーランド 【2002年9月～2003年2月】 金美星 【2002年9月～2003年7月】 林灌映 【2002年9月～2002年10月】 マックスウェル カウデン 【2003年9月～2004年7月】 フィリップ ウィルケス
韓国 【2002年4月～2003年3月】 李炯珍、權一訓、康安洙 【2003年4月～2004年3月】 朴鐘順、崔珍美、黃品民、韓美貞
中国 【2002年4月～2003年3月】 董球、曾麗頰 【2003年4月～2004年3月】 刘思思、罗燕雯
ベトナム 【2002年4月～2003年3月】 グエン ティ タイン トゥイ 【2003年4月～2004年3月】 グエン ティ ミン ロイ
タイ 【2003年10月～2004年8月】 クラウキチクル プフルッチパン

本学留学生への交流の主な案内 (2002年度)

名 称	主 催	内 容	期 日
留学生の会	熊本 YWCA	日本の家族紹介 行事への案内と招待	随時入会 申込受付
年間 中国映画上映会	熊本県日中友好協会青年部	年間 4 回の中国映画を無料で上映	
熊本市防災署防災センター見学	熊本学園大学国際交流センター	防災センターで防災についての講話と 地震・火災等体験	4/10および 9/11
新入生歓迎ピクニック	熊本学園大学第一部学生自治会	新入生歓迎の大学行事 (南阿蘇へのバスハイク)	4/13
第15回留学生交流会	国際ロータリー第2720地区ロータリー アクトクラブ	今年は熊本県の主催によるスポーツ交 交流会	5/19
高校生との日中友好料理交流会	桂熊会	熊本市と桂林市との高校生交流から発 展した学生交流	6/8
第12回外国人留学生弁論大会	熊本学園大学国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	6/22
日本語クラスのフィールドトリップ	熊本学園大学国際交流センター	阿蘇久木野そば道場でそば打ち体験	7/15
第 6 回九州アジア大学	九州アジア大学実行委員会	2002年は熊本県を会場として 5 日間の 留学生、日本人大学生の交流研究会	8/5～8/9
第24回北海道国際交流のつどい	北海道国際交流センター	ホームステイ交流、地域交流、学校交流	8/19～9/1
火の国まつり	熊本市	おてもやん総踊り参加	8/12
第10回日韓中ジュニア交流協議会 での通訳	熊本県体育協会	海外招聘チームへの通訳ボランティア に参加	8/23～8/29
全国座長大会	熊本日日新聞情報文化センター	全国座長大会熊本公演への招待	10/12
琴演奏会	熊本学園大学国際交流センター	本学国際交流会館にて琴演奏会	10/19および 12/14
体育祭	体育常任委員会	本学体育祭への参加	11/1
託麻祭	熊本学園大学第一部学生自治会	外国人留学生の模擬店を出店	11/2～11/4
くまもとお城まつり	日本現代和装研究所	着物を着て、お城散策	11/2
くまもとお城まつり	熊本市観光物産課	時代行列への参加	11/4
第 9 回米国留学生との交流会	熊本日米協会	講話会と懇談会	11/13
スポーツ交流会	熊本学園大学学生議会	本学日本人学生と留学生とのスポーツ 交流と懇談会	12/1
日本語クラスのフィールドトリップ	熊本学園大学国際交流センター	くまもと工芸館で和菓子作り体験	12/5
イヤーエンドパーティー	熊本市国際交流振興事業団	市民とのパーティー交流会	12/6
熊本の企業人と留学生との懇談会	熊本留学生交流推進会議	企業人を囲んでの懇談会と昼食会	12/14
お正月体験ホームステイ	国際交流会「西端塾」(長崎県)	7泊8日のお正月体験ホームステイに 参加	12/28～1/4
成人式	日本現代和装研究会	着物の着付けと式典出席	1/13
国際交流祭典2003	熊本県国際協会	式典に司会・語学ボランティアとして 参加	2/15
第 5 回在熊外国人の主張	熊本グリーンロータリークラブ	在熊留学生の日本語による弁論大会	2/15
第21回熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国の旧暦のお正月「春節」パーティ	2/20
能楽ワークショップ	熊本ユネスコ協会	喜多流能楽ワークショップ参加	3/1
手作り料理で送る会	熊本商工会議所青年部	留学生送別会参加	3/8
第22回からいも交流	からいも交流連絡協議会	2週間、鹿児島・宮崎でのホームステイ	3/9～3/23
第30回ユネスコ文化財を見る会	熊本ユネスコ協会	熊本の文化財見学(荒尾)	3/15
学校・施設訪問	第二高校 託麻原小学校 古町幼稚園 敬愛幼稚園 嘉島保育園	異文化理解教育による保育園・幼稚 園・小学校、中学校、高校の訪問	9月30日 10月1日 10月24日 12月19日 12月21日

交換教員紹介



朴 喜 南 先生
(韓国・大田大学校)
2003年3月から1年間、交換教員として韓国語を担当



孙 利 群 先生
(中国・深圳大学)
2003年3月から半年間、交換教員として中国語を担当



野間 重光 先生
(経済学部教授)
2003年3月から1年間、交換教員として韓国・大田大学校へ



金 栄 緑 先生
(経済学部助教授)
2003年8月から1年間、第1回交換教員としてアメリカ・モンタナ大学へ

2003年研修団往来

〈受入〉

研修団名	研修期間	団員数
大田大学校学生研修団	6月26日(水)～7月17日(水)	28名

〈派遣〉

研修団名	研修期間	期間	研修先	団員数
経済学部外国事情研修韓国コース	7月10日(木)～8月8日(金)	30日間	大田大学校	8名
経済学部外国事情研修 ニュージーランドコース	7月15日(火)～8月12日(火)	29日間	ユニテック	16名
			オークランド大学	15名
			ワイカト大学	14名
外国語学部海外研修ニュージーランドコース	7月16日(水)～8月13日(水)	29日間	E I T	16名
外国語学部海外研修韓国コース	7月28日(月)～8月25日(木)	29日間	ユニテック	36名
			梨花女子大学校	28名



外国事情研修ニュージーランドコース

INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAM COMMITTEE MEMBERS

国際交流委員会メンバー

2002年1月～2003年12月

国際交流委員長 Chair	中野裕治	NAKANO, Hiroharu	
商学部 Faculty of Commerce	喬晋建	QIAO, Jin Jian	土井文博 DOI, Fumihiro
経済学部 Faculty of Economics	金栄緑	KIM, Young Rok	慶田 收 KEIDA, Osamu
外国語学部 Faculty of Foreign Languages	西紀昭	NISHI, Noriaki	向井久美子 MUKAI, Kumiko
社会福祉学部 Faculty of Social Welfare	伊藤良高	ITO, Yoshitaka	井上勝子 INOUE, Katsuko
国際交流センター事務室 Office of International Programs	田中和穂	TANAKA, Kazuho	喜佐田知子 KISADA, Tomoko

※金栄緑（2003年7月まで）

※喜佐田知子→岡村健一（2003年10月～）

OFFICE STAFF MEMBERS

国際交流センター事務室職員

次長	田中和穂	TANAKA, Kazuho	
室長	岡村健一	OKAMURA, Kenichi	
係長	喜佐田知子	KISADA, Tomoko	
	切通しのぶ	KIRITOSHI, Shinobu	韓国、中国、学部研修、私費留学生
	矢澤恵子	YAZAWA, Keiko	英語圏、学部研修
	大澤菜穂子	OSAWA, Nahoko	英語圏
	甲斐千絵	KAI, Chie	一般
	寺田一利	TERADA, Kazutoshi	国際交流会館（事務室）

OFFICE HOURS

窓口時間

平日	Monday-Friday	9:00～12:30	13:30～17:00
土曜日	Saturday	9:00～12:30	

CONTACT ADDRESS

お問い合わせ先

〒862-8680
熊本市大江2丁目5番1号
熊本学園大学 国際交流センター事務室
TEL 096-366-3230（直通）
FAX 096-372-4112（専用）

Office of International Programs
Kumamoto Gakuen University
2-5-1 Oe, Kumamoto 862-8680
TEL +81-96-366-3230
FAX +81-96-372-4112

E-mail : ipkgu@kumagaku.ac.jp

U R L : <http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko/index.htm>



〒862-8680 熊本市大江 2 丁目 5 番 1 号
電話 (096) 364-5161
<http://www.kumagaku.ac.jp>